

プラネット物流の効率的な共同物流を支える 8,000 坪超の流通センター



「当時、北関東エリアで、我々の共同物流システムに参加を表明する企業が 8 社あり、8,000～10,000 坪を超える施設を探していた。同時に参加メーカーの工場から輸送コストが安く、アクセス性の良い物件が必要不可欠だった」と話すのは 2008 年 1 月、GL プロパティーズの『GLP 杉戸 II』に北

関東流通センターを稼働させたプラネット物流株式会社の久留雅雄代表取締役社長。プラネット物流は、『システムは共同で、競争は店頭で』の設立理念のもと、日用品雑貨業界のメーカー、卸店、物流事業者の 3 者の間に立ち、公平な立場から共存共栄に向け、合理的かつ効率的な仕組みを追求した『全体最適』となる共同物流を全国で推進している。

このプラネット物流が手掛ける共同物流において、入庫から保管、仕分け、配送までハード面を支えるのは 3PL 事業者である丸全昭和運輸株式会社。野口正剛代表取締役社長は「プラネット物流の北関東流通センターとして GLP 杉戸 II の 1 階と 2 階の半分を賃貸しているが、合計で 8,000 坪となるとワンフロアが非常に広いため、この広さをいかに機能的に活用し、荷主サイドのコストダウンにどれだけ貢献することができるかが 3PL 事業者としての役割」と話す。

“広さ”の有効活用へ、理論値に近づける改善に向けた取り組み

2010 年現在、プラネット物流北関東流通センターでは、共同物流に参加するメーカー 9 社の製品が工場などから日々入庫し、保管、格納され、卸店へ配送されている。「ワンフロアで 5,000 坪を超える広さを持つ GLP 杉戸 II が、理論的に使いやすいことは分かっていた。ただ、稼働当初は、その広さゆえの苦労もあった。複数メーカーから出庫されてきた荷を、想定では 80 万梱は保管できると考えていたが、幅が 200m、奥行 100m もあると、ピッキング導線がどうしても長くなってしまふ。また 9 社の製品を出荷先ベースで保管・管理するためには導線が複雑にクロスするなど、出荷時の荷役作業が遅れ、配送作業に無理がかかり、保管は、実際には 50 万梱強までしか対応できなかった」とプラネット物流の久留社長は当時を振り



プラネット物流 久留社長

返る。「我々、共同物流事業の管理会社であるプラネット物流が持っているノウハウと、3PL を手掛ける丸全昭和運輸や実作業を行う武州運輸倉庫の現場能力をぶつけ合って、改善していくことによって、現状では安定的に 80 万梱を超える荷物を保管するという目標に近づきつつある」。



丸全昭和運輸 野口社長

「稼働当初は無線 LAN を使っていなかった。すべてハードペーパーで扱い、検品なども今の倍以上の時間がかかっていた」と話すのは丸全昭和運輸の野口社長。「どういった形で無線 LAN などを活用し、システムの中で作業・保管を行うか、実務を通して、その考え方がまとまり、無線 LAN を搭載したプラッター(リーチ式フォークリフト)などを完全導入したことで、飛躍的に事務効率、作業効率も向上した。これもワンフロアでできる広いスペースがあつてこそであり、実際に携わる従業員もコストも半分で済むようになった。また、スペースの効率活用においても、大量入庫・大量出庫を要するものは、従来の 3 段式のラック一辺倒ではなく、平置きにするなど、足の早い荷物とそうでない荷物など棲み分けを明確にした。倉庫全体の活用の際しても、

建物の両脇 2 方向から複数社の荷物を入庫し、荷役を経て中央に集め、中央から出荷するというフローを構築するなど高い作業効率を実現した。それもプラネット物流と何度も話し合いを重ねることができた成果で、GLP 杉戸 II に柔軟なフロアプランを描ける十分な数のバースが設置されていたことによるもの」。

プラネット物流の久留社長も施設選定の理由として「最優先は立地、次は規模、そして荷物を受けるバース、荷物を出すバースが物流量に見合った形で十分にあること」とバースの重要性を強調している。

アクセス性のみならず、従業員にとって働きやすい高付加価値施設



丸全昭和運輸
加山取締役

GLP 杉戸 II はその立地においても、東北までを含めた関東圏をカバーするプラネット物流北関東流通センターとして最適な条件を備えている。実際に、配送業務などを引き受ける丸全昭和運輸の野口社長も「立地は非常に重要。杉戸は配送先へのアクセス、特に高速道路へのアクセスが近接している場所、久喜に 20km、加須に 25km、常磐道でいうと柏に 25km、4 号線に草加まで 20km。各地点に 20 から 25km くらいのちょうど中心点となり、東北のメーカーからの入庫、また配送先である北関東とのアクセスが非常に有効」と立地による物流効率への貢献度を説明する。

また、施設の高機能、高付加価値について、野口社長は「私が一番感心しているのは、ID カードがないと各フロアに入れないこと。そうしたセキュリティ面の対応に設備の優位性を感じた」。丸全昭和運輸の加山等取締役も「従業員からも、トイレが非常にきれいで気持ちがいい、食堂やコンビニ、また自販機のコーナーが各層にしっかりあるなど働きやすい環境という声があがってきている」と就業環境について説明。また、施設内での入庫、荷役、配送など現場を取り仕切る丸全昭和運輸のグループ企



武州運輸倉庫
伊藤社長

業である武州運輸倉庫株式会社の伊藤秋男代表取締役社長は「現状、1階と2階を使っているが、年間を通じて倉庫内の温度が一定に保たれている。一般的に、倉庫内は夏場になると温度が上がるものだが、1階と2階で30度を超える日はない。1階はトラックバースがあるから比較的風が抜けるが、2階も温度が保たれている。これは断熱効果が高い外壁によるものと思われるが、作業員の夏場の疲労度合いも違う」と補足する。

プラネット物流事業推進部で施設のオペレーションを統括する戸嶋策宣センター運営グループ担当部長も同調する。「住環境がとてもいい。トイレや事務所、売店、食堂は、プラネット物流が使用している全国のセンターの中でも1番いい。現在GLP杉戸Ⅱの北関東流通センターでは、OTCの医薬品を扱っているが、保健所の認可等に必要な温度管理や整理整頓、清潔なフロアであることなどの要求も問題なくクリアできた」。さらに、「GLP杉戸Ⅱの物件はハブセンターとしての役割を担っている。万一、災害等が起きた時でも滞りない出荷が求められるので、杉戸の耐震性は魅力的。参加メーカーが取り扱っている製品には医薬品もあるので、ライフラインの復旧前、また復旧時に必要なものが多い。他の施設がダメでも、ここからはすぐ出荷できる」と物流施設の堅牢性の重要性を語った。



プラネット物流
戸嶋部長

物流施設の在り方は新たなフェーズへ

プラネット物流の久留社長は「直近の目標としては、取り扱い数量をさらに安定させること。そして、いかに保管効率をあげるか、回転率をあげて積数をあげるか。現状、80万が1つの目安であるが、1日4万5,000の出荷数を5万とか6万くらいまで出せるようになれば回転率が高まる。その結果、保管効率上がる。倉庫は午前に入庫し、午後に出荷する。1日のうちで一番荷物が多いのは昼。入庫が多くても出荷が多ければ一瞬の拡幅だからまた元に戻る。これを多くすることで回転率アップにつながる」と今後の展望を話す。さらに「物流施設において、保管効率と荷役と配送は3本セット。大量に保管できても出荷しにくかったらNG。出荷しやすくても配送(積み荷)が難しかったら意味がない。3者をどう組み合わせっていくか——これは借り手の楽しみでもある」と今後の施設運営に自信をのぞかせた。

一方、丸全昭和運輸の野口社長は「今までのように、土地を取得ないしは土地だけ借りて、上物を建てるというのはコスト面で得策ではなくなってきた。また後者の場合、今後は資産除去債務の導入など毎年建物をこわす費用も償却しないといけなくなる。バランスシート上で考えると、GLプロパティーズのような企業に作っていただいて、期間限定でお借りして、必要な時にだけ使わせていただくという考え方が必要な時代になっている。ただし、賃貸にだけすべてを頼ってはいけない。自社で所有、賃貸などバランス良くやっていかないと、事業運営は上手いいかない」と変わりゆく物流業界の経営の

在り方を俯瞰した。

プラネット物流株式会社について

1987年8月創業。日用品雑貨業界のメーカー共同物流を目的に、設立理念である「システムは共同で、競争は店頭で」のもと、メーカー、卸店、物流事業者3者のオルガナイザーとして、合理的かつ効率的な仕組みを構築し、業界標準化・システム化を推進。国内で最初となる流通VANを基盤とした共同物流を展開、1995年には日本ロジスティクス大賞受賞。現在、国内に流通センター6拠点を構え、参加メーカーは68社を数える。

丸全昭和運輸株式会社について

1931年に横浜の地で創業以来、「お客様第一主義」を経営理念の第一義として位置づけ、総合物流企業として海・陸・空にわたる複合一貫輸送によるロジスティクスをグローバルに展開。また、物流新時代の多様なニーズに即応する独自の3PL(MLP)サービスなど蓄積した専門知識と高い技術力による高品質な物流サービスを提供している。29社のグループ会社を傘下に、3000名を超える社員、130を超す事業所を有する総合物流企業。

GLP 杉戸Ⅱ

所在地： 埼玉県北葛飾郡杉戸町大字深輪398-2

敷地面積： 53,792 m²(16,301 坪)

延床面積： 127,231 m²(38,555 坪)

特 徴： マルチテナント型

埼玉県の東部の千葉県、茨城県に隣接する北葛飾郡杉戸町の杉戸深輪産業団地内に位置

し、国道4号線および国道16号線から至近。東北自動車道、常磐自動車道ICへのアクセス性も高い。GLP 関東以北の施設で最大の延床面積を誇る

